

〔アレルギー, 32, 317 (1983)〕

### Effect of Chinese Blended Medicine, Saiboku-tō, on Type IV Allergic Reaction

TAKESHI NISHIYORI, ICHIRO NAKATOMI, NAOSUKE MATSUURA,  
HIROICHI NAGAI, AKIHIDE KODA

#### 漢方方剤, 柴朴湯のⅣ型アレルギー反応に及ぼす影響

西依 健, 中富一郎, 松浦直資, 永井博弼, 江田昭英

古来, 喘息および気管支炎の治療に用いられてきた柴朴湯のⅣ型アレルギー反応抑制作用機序について検討を行った。ヒツジ赤血球によって誘発されたマウスの遅延型足蹠反応は, challenge 後 6 時間および 16~20 時間に柴朴湯を経口投与すると著明に抑制された。また, 18 時間後の投与では用量依存的な抑制がみられた。Picryl chlorid で誘発した細胞性免疫応答では, prednisolone は一次および二次のいずれの応答をも抑制したのに対して柴朴湯はいずれも抑制しなかった。また, ヒツジ赤血球に対する細胞性免疫応答に対しても柴朴湯は抑制作用を示さなかった。Skin reactive factor の活性を指標として測定した, BCG 感作モルモットリンパ節細胞からの抗原による lymphokine 遊離は柴朴湯によりわずかに抑制されたにすぎなかった。これに対して, モルモットの皮膚に lymphokine を注射して引き起こした発赤は, lymphokine 注射 1 時間前に柴朴湯を経口投与しておくことより著明に抑制された。これらの成績から, 柴朴湯のⅣ型アレルギー反応抑制作用は effector phase の抑制, 特に lymphokine による炎症の抑制を介するものと考えられる。

〔Int. J. Immunopharmac., 5, 235 (1983)〕

### Immunopharmacological Studies on Experimental Glomerulonephritis

HIROICHI NAGAI, AKIHIDE KODA, HIROSHI MORI, TSUKASA SHIMAZAWA\*

#### 実験的糸球体腎炎の免疫薬理学的研究

永井博弼, 江田昭英, 森 裕志, 島沢 司\*

Nephrotoxic serum (NTS) によって惹起されるラットの腎炎を改良し, 免疫薬理学的に検討した。腎炎は, あらかじめウサギ IgG および complete Freund's adjuvant を用いて免疫したラットに subnephrotoxic dose の NTS を静脈内注射することにより発症させた。尿中タンパク量, 血中コレステロール値, 血中尿素窒素量および病理学的スコアの上昇から, あらかじめ免疫することにより典型的な腎炎が発症することが示された。補体のレベルには変化が認められなかった。細胞移入実験の成績から, 腎炎の発症には感作リンパ球が必須であることが明らかになった。また, nylon wool カラムを通過した細胞あるいはウサギ抗ラット F(ab')<sub>2</sub> 抗体と補体で処理した後 Sephadex G-10 カラムを通過した細胞を移入した場合には腎炎症状は著しく増悪した。Cyclophosphamide, prednisolone, tilorone および 1-methyl-4-isohexylcyclohexane carboxylic acid の投与は腎炎の治療効果を示した。Cobra venom factor は血中の CH<sub>50</sub> 値を低下させたが腎炎治療効果を示さなかった。これに対して, Cu-chlorophyllin は CH<sub>50</sub> 値をわずかに低下させたにすぎなかったが, 尿中タンパク量および血中コレステロール値の上昇を著明に抑制した。Macrophage に作用する carrageenan および dextran sulfate は治療効果を示さなかった。これらの成績から, 本腎炎の発症には感作 T 細胞が重要な役割を果たしているものと考えられる。

\* 岐阜医療短期大学